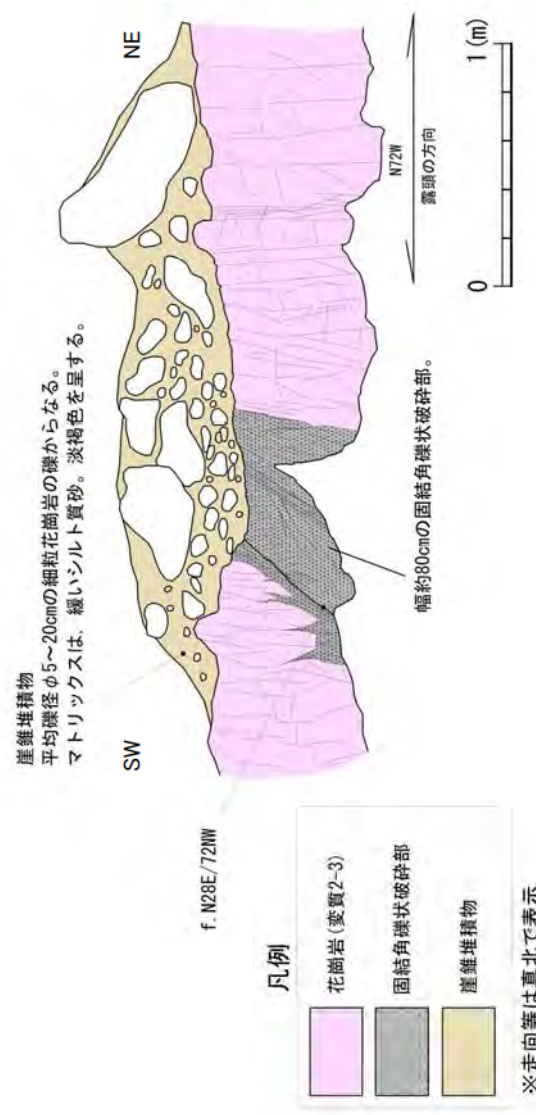


3号炉北東方の露頭 (AMS-21)



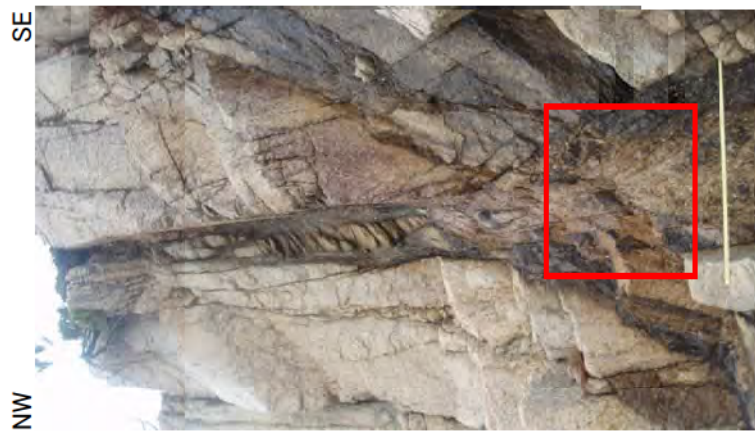
全景写真

幅80cm程度の固結した角礫状破砕部。
走向・傾斜：N28E/72NW。
破砕部を覆う礫層に変位・変形は認められない。



第 1. 5. 7 図 3 号炉北東方の露頭 (AMS-21) の写真及びスケッチ

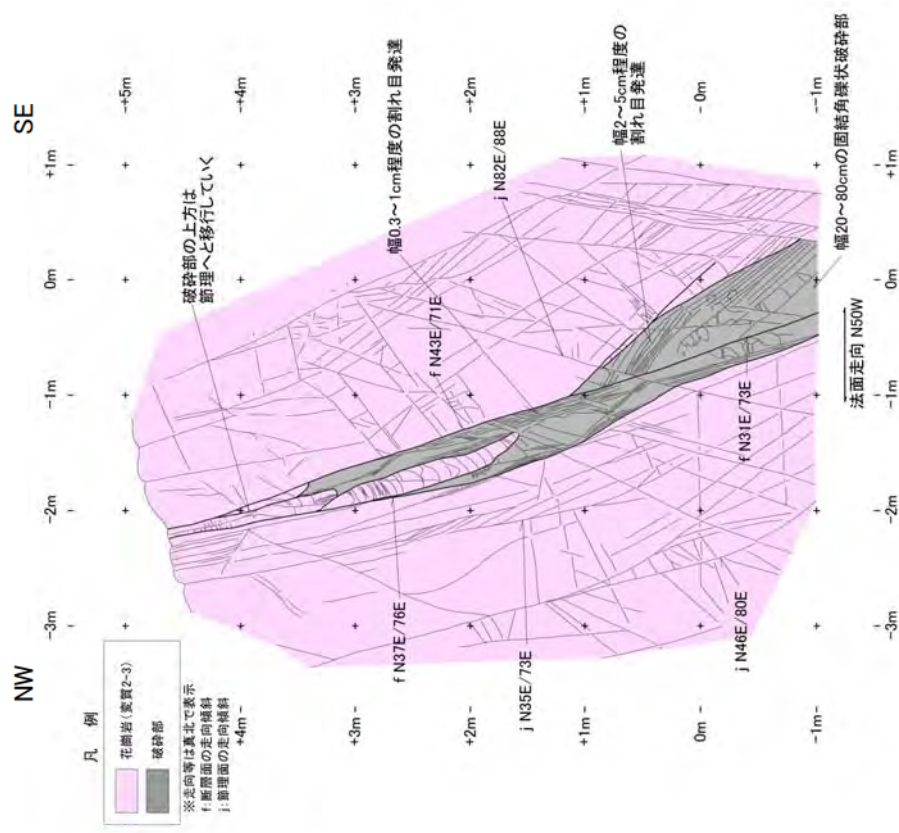
3号炉北方の露頭 (AMUK-5)



全景写真



拡大写真



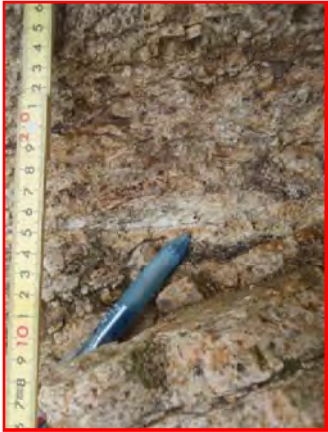
幅20cm~80cmの固結した角礫状破砕部。連続性に富む主断層面は認められない。破砕部右縁の走向・傾斜: N43E/71SE。上方では、節理に移行していく。

第 1.5.8 図 3号炉北方の露頭 (AMUK-5) の写真及びスケッチ

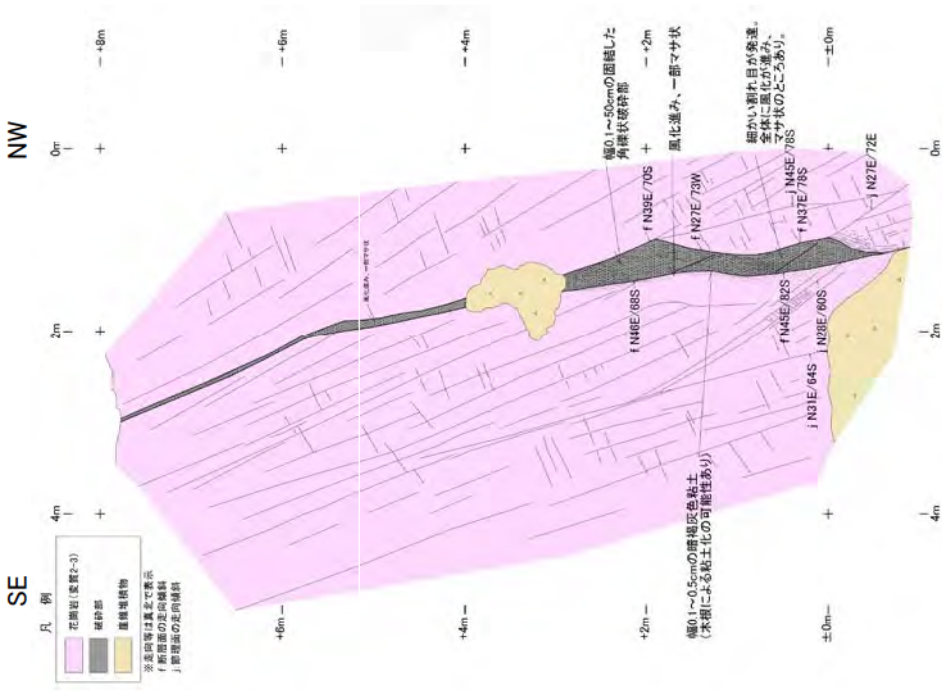
3号炉南西方の露頭 (AMS-16)



全景写真

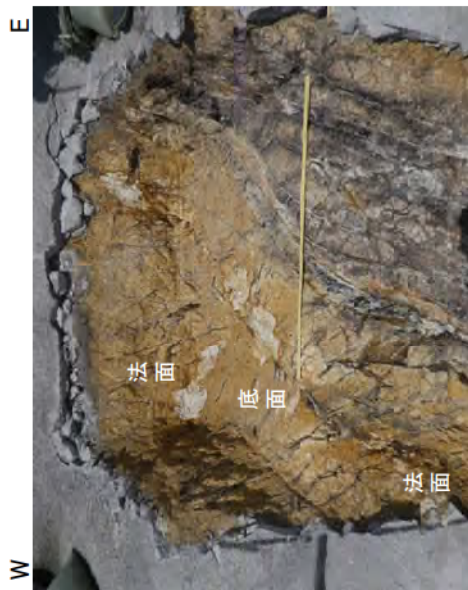


拡大写真

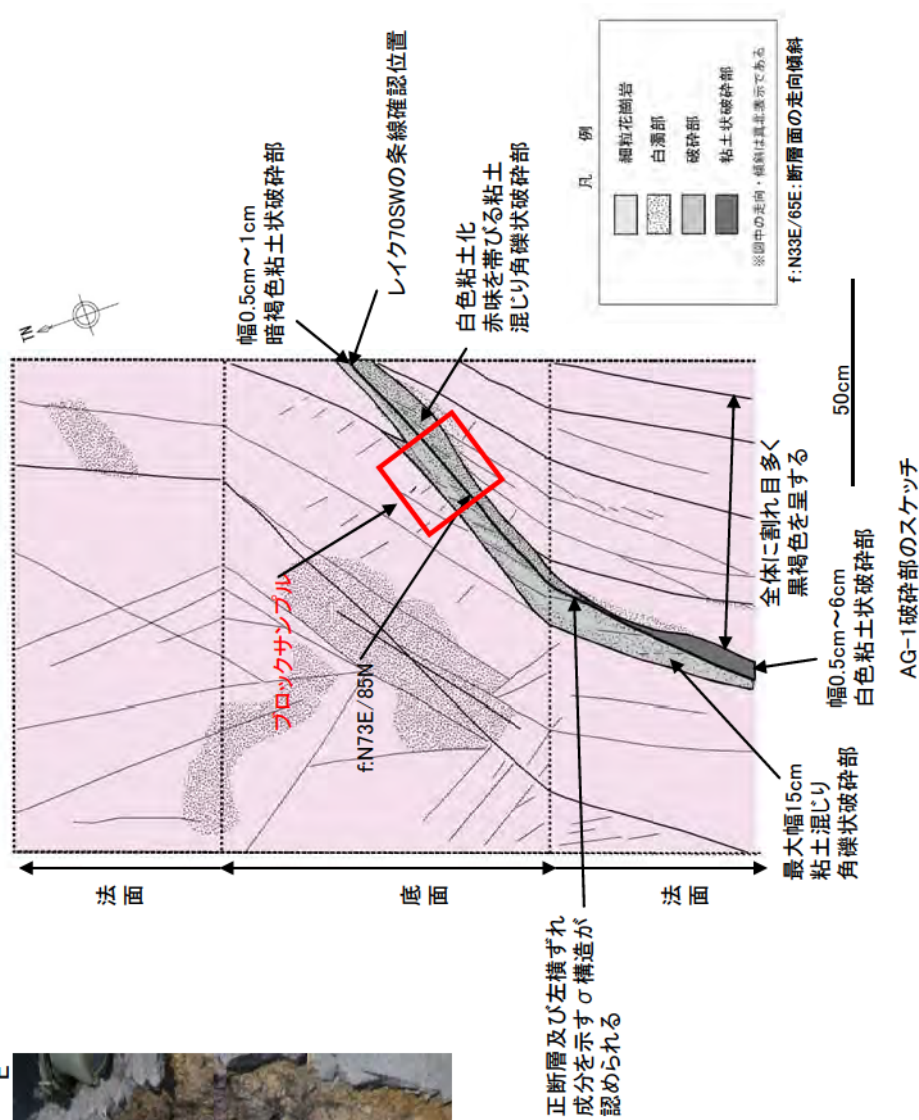


幅0.1cm~50cmの固結した角礫状破砕部。
左縁に沿って幅0.1cm~0.5cmの暗褐色粘土を伴う(左拡大写真)。
走向・傾斜:N46E/68S。
破砕部の上方はN30E方向の節理に沿って分布し、節理に移行していく。
下方も節理に沿って幅が狭くなる。

第 1.5.11 図 3 号炉南西方の露頭 (AMS-16) の写真及びスケッチ



AG-1破砕部の写真



AG-1破砕部の性状

走向傾斜はN73E/85N。
破砕幅は7cm~15cm、粘土状破砕部と粘土混じり角礫状破砕部からなる。
露頭観察では正断層及び左横ずれ成分を示すσ構造が認められる。
また、最新面にレイク70SWの条線を確認した。

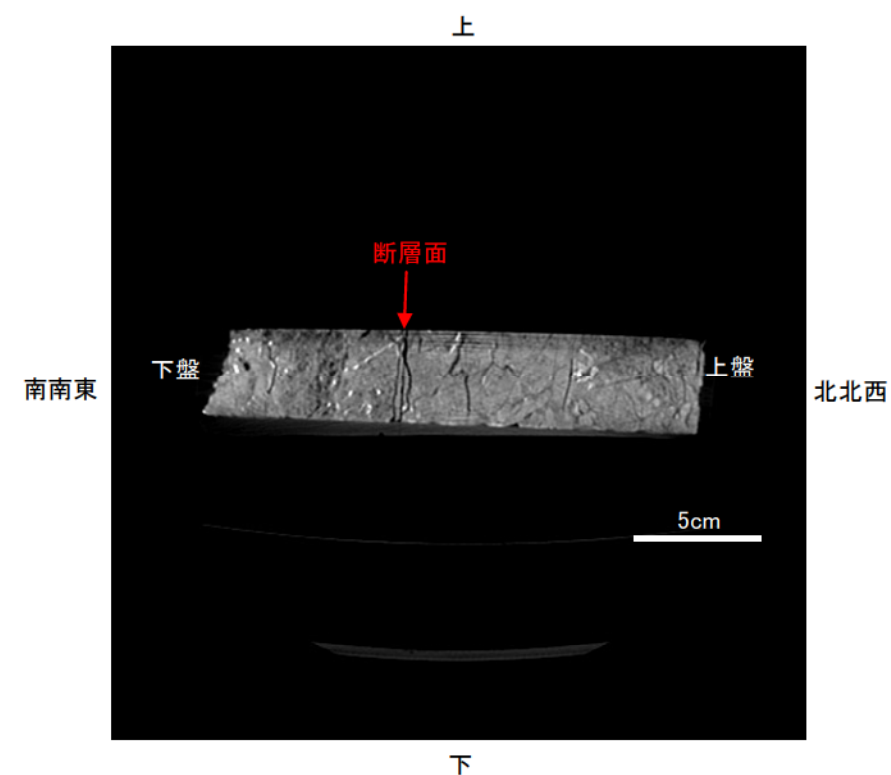
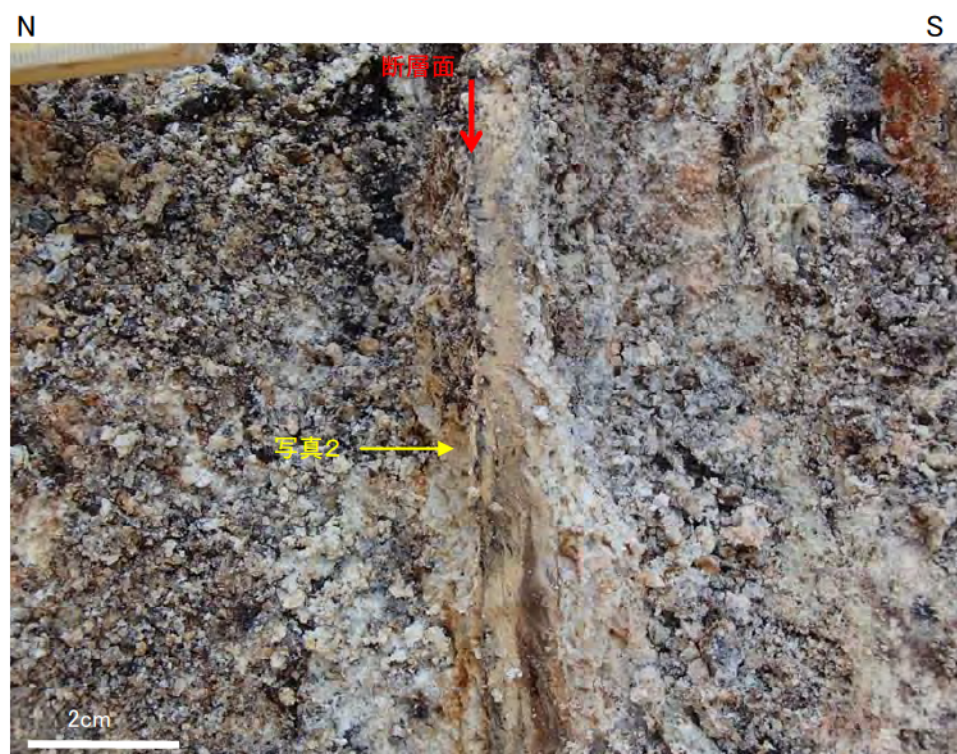
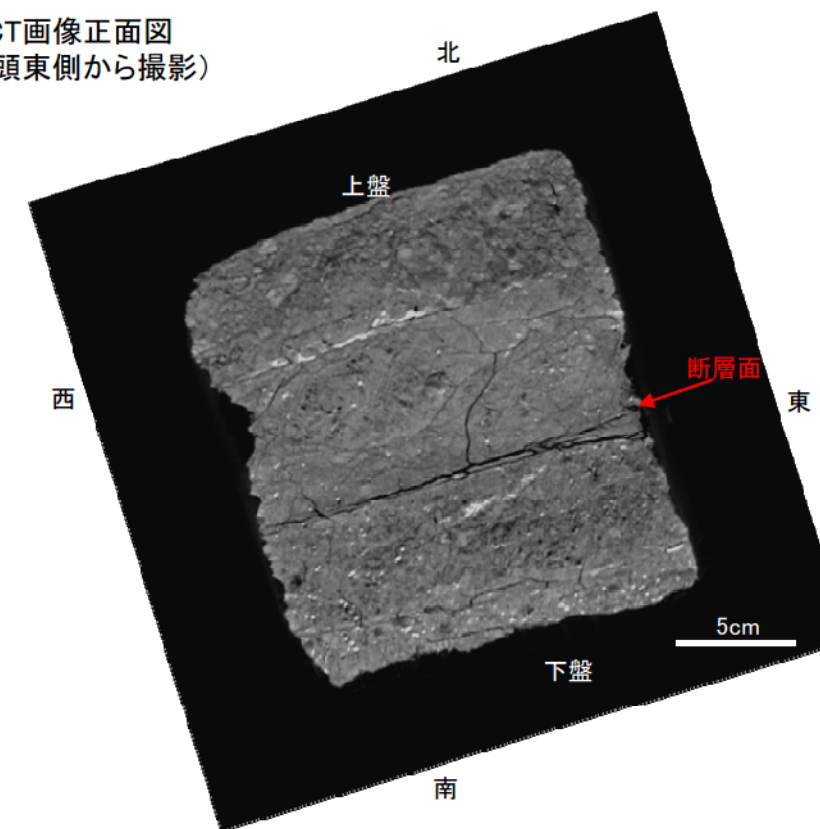


写真2: 断層面上に70SWの条線が認められる。付加ステップの方向から、最新活動の運動センスは左横ずれ正断層である可能性がある。

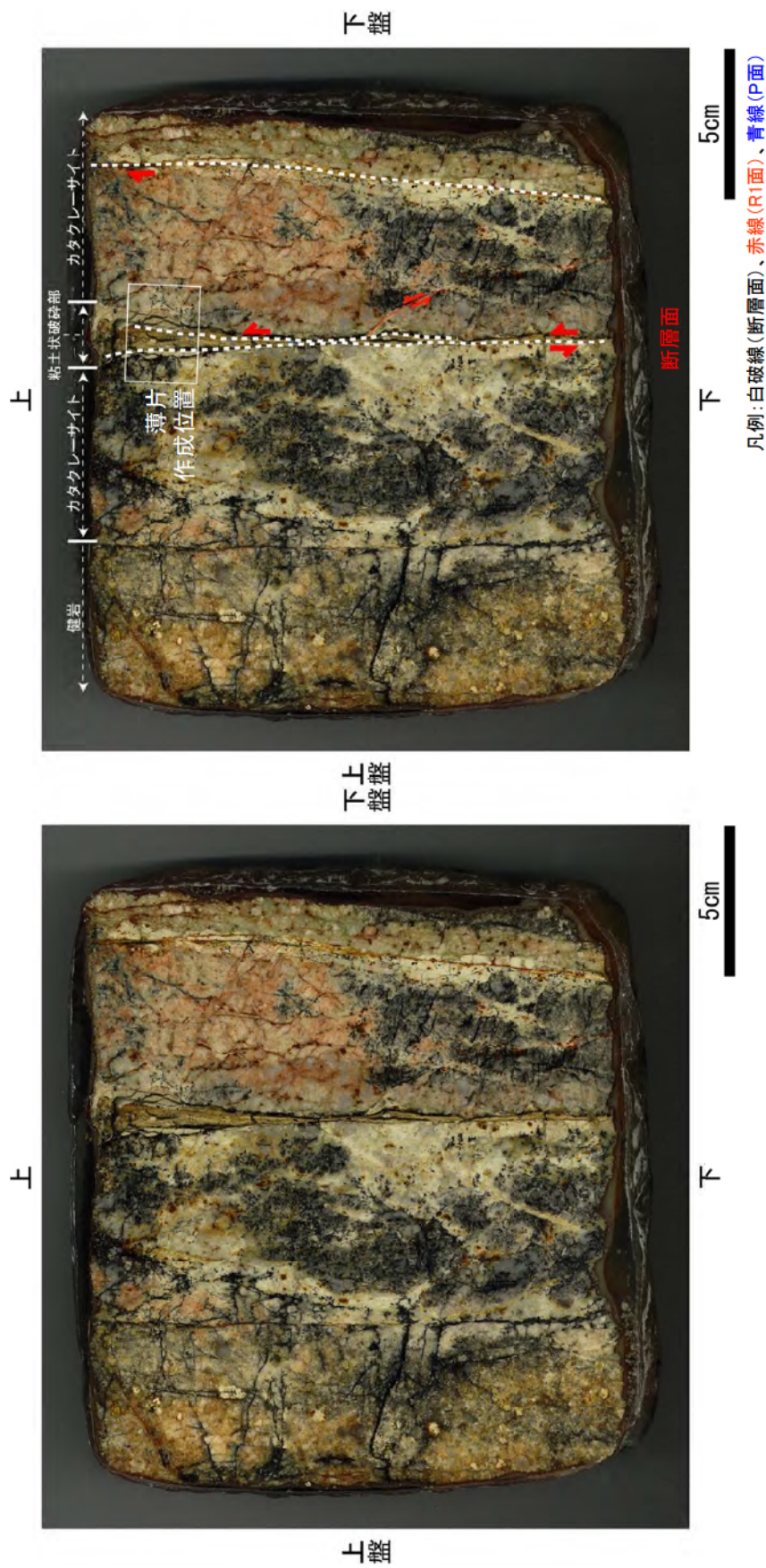
CT画像正面図
(露頭東側から撮影)



CT画像水平図
(露頭を上から撮影)

断層面の走向/傾斜:N73E/85N、縦ずれ成分:不明、横ずれ成分:不明。
途切れることなく連続するY面が1条認められた。
さらに、このY面は直線性に優れることから断層面であると考えられる。
明瞭な密度変化は認められない。

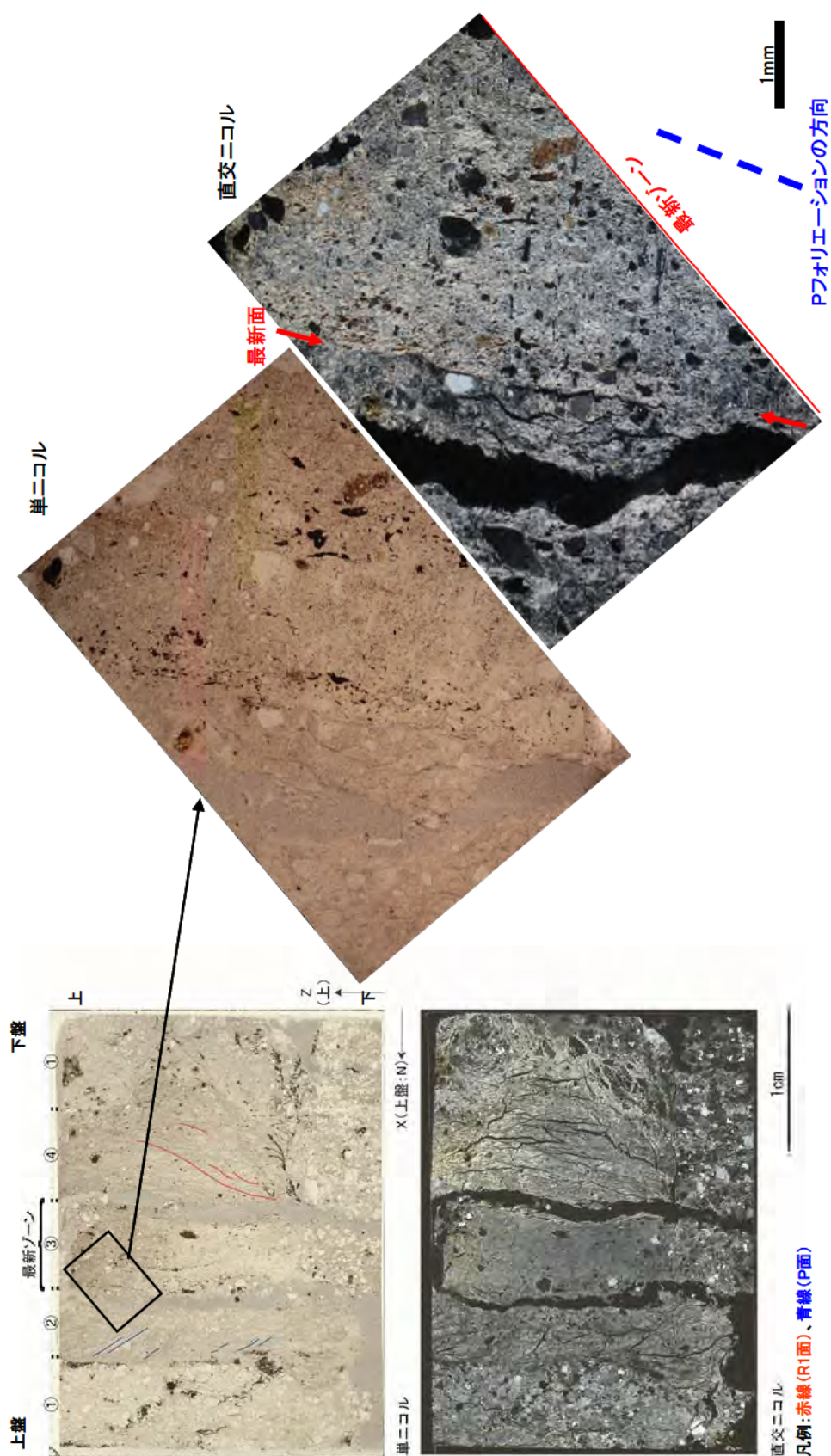
第 1. 5. 13 図 アゴ越付近の破碎部 (AG-1) の C T 画像観察および条線観察結果



研磨片観察結果

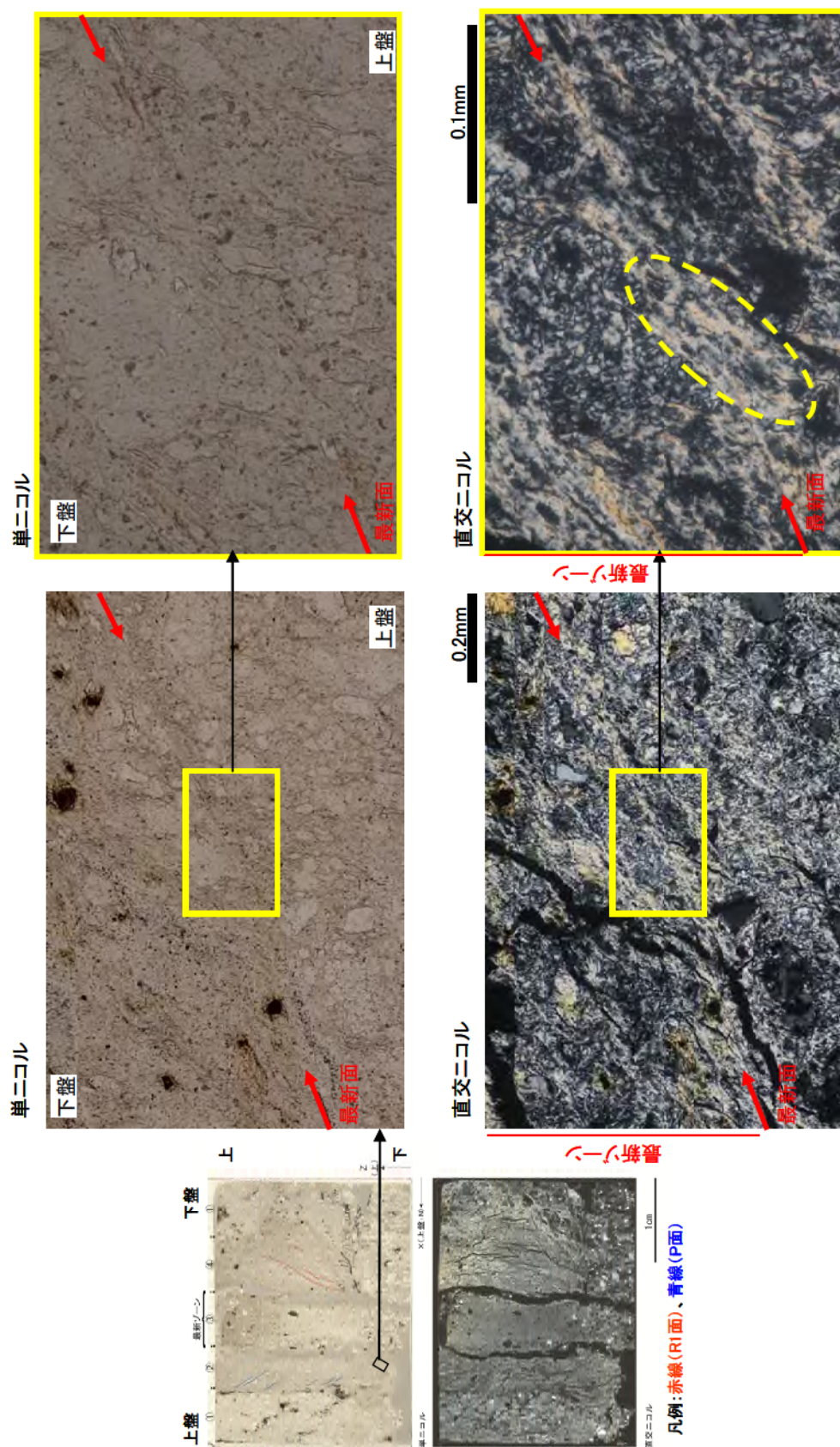
- 分帯: 健岩とカタクレーサイト、粘土状破砕部が認められる。
- 粘土状破砕部に沿って、研磨片を横断するY面が1条認められる。さらに、このY面は直線性に優れることから、断層面であると考えられる。断層面は主に粘土状破砕部と上盤側のカタクレーサイトを境界付け、研磨片上部で粘土状破砕部中を通過する。
- カタクレーサイト中のY面に沿って逆断層成分を示す複合面構造が認められる。さらに、断層面に沿う粘土状破砕部中に左横ずれを伴う正断層センスを示す変形指標が認められる。これらのことから、運動センスが逆断層から左横ずれを伴う正断層に反転した可能性がある。

第 1.5.14 図 アゴ越付近の破砕部 (AG-1) の研磨片観察結果



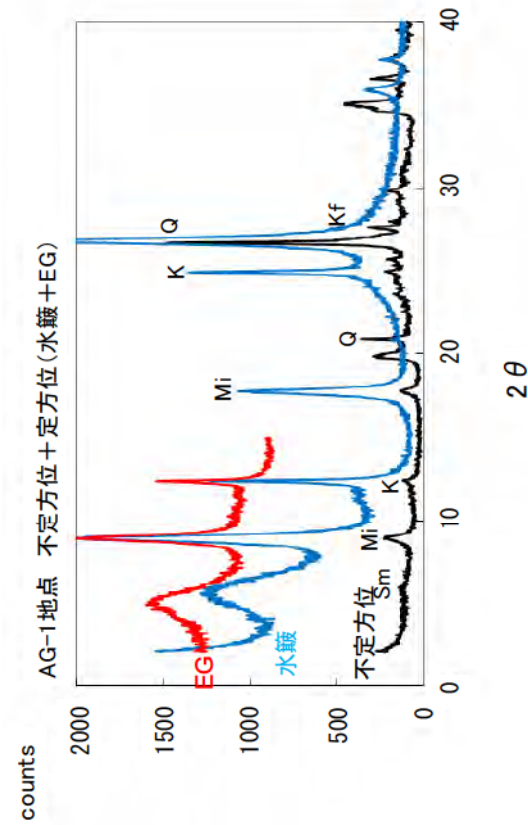
- 観察の結果、①カタクレーサイト、②細～中粒粘土状破砕部(細粒碎屑物に富む)、③極細粒粘土状破砕部(一部中粒フラグメントを含む)、④細粒粘土状破砕部(③に比べ細粒粘土鉱物が発達、薄片下部で消滅)に分帯される。③が最新ゾーンである。最新面は極細粒粘土状破砕部(③)と細～中粒粘土状破砕部(②)の境界に位置する。最新ゾーンには層状構造が認められない。
- 最新面に沿って左横ずれを伴う正断層センスを示すPフオリエーションが認められる。
- 断層の走向傾斜がN73E/85N、条線角度が70SWであることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

第 1.5.15 図 (1) アゴ越付近の破砕部 (AG-1) の薄片観察結果 (1)



・最新面及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達し、最新面を横断しているものがあり、変形していない。

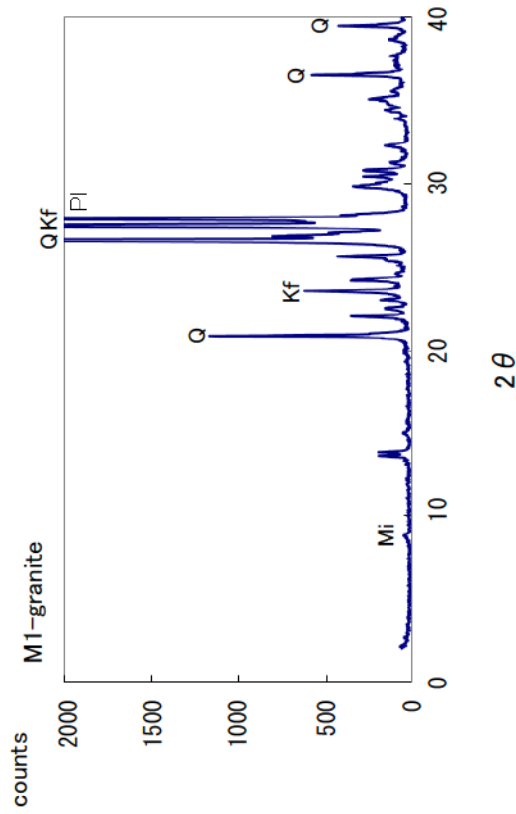
第 1.5.15 図 (2) アゴ越付近の破碎部 (AG-1) の薄片観察結果 (2)



アゴ越 (AG-1) 破砕部のチャート

水鏡及びEG処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

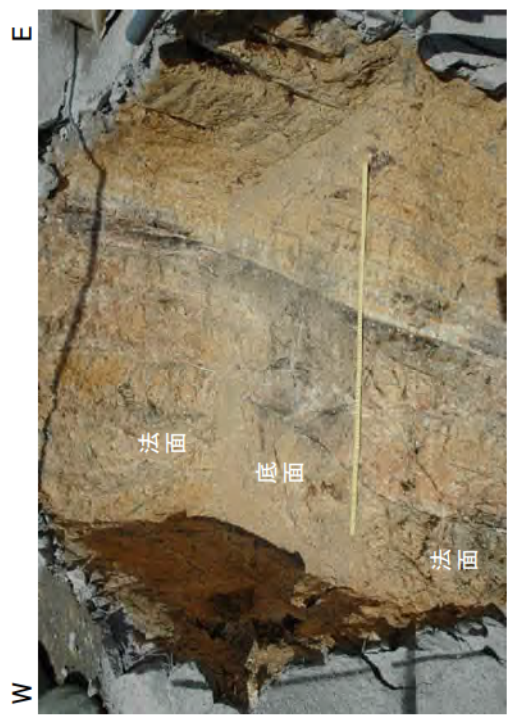
- ・AG-1破砕部は、新鮮花崗岩と比べ斜長石の割合が小さくなっている。
- ・一方、AG-1破砕部はスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物が生成している。
- ・よって、AG-1破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。



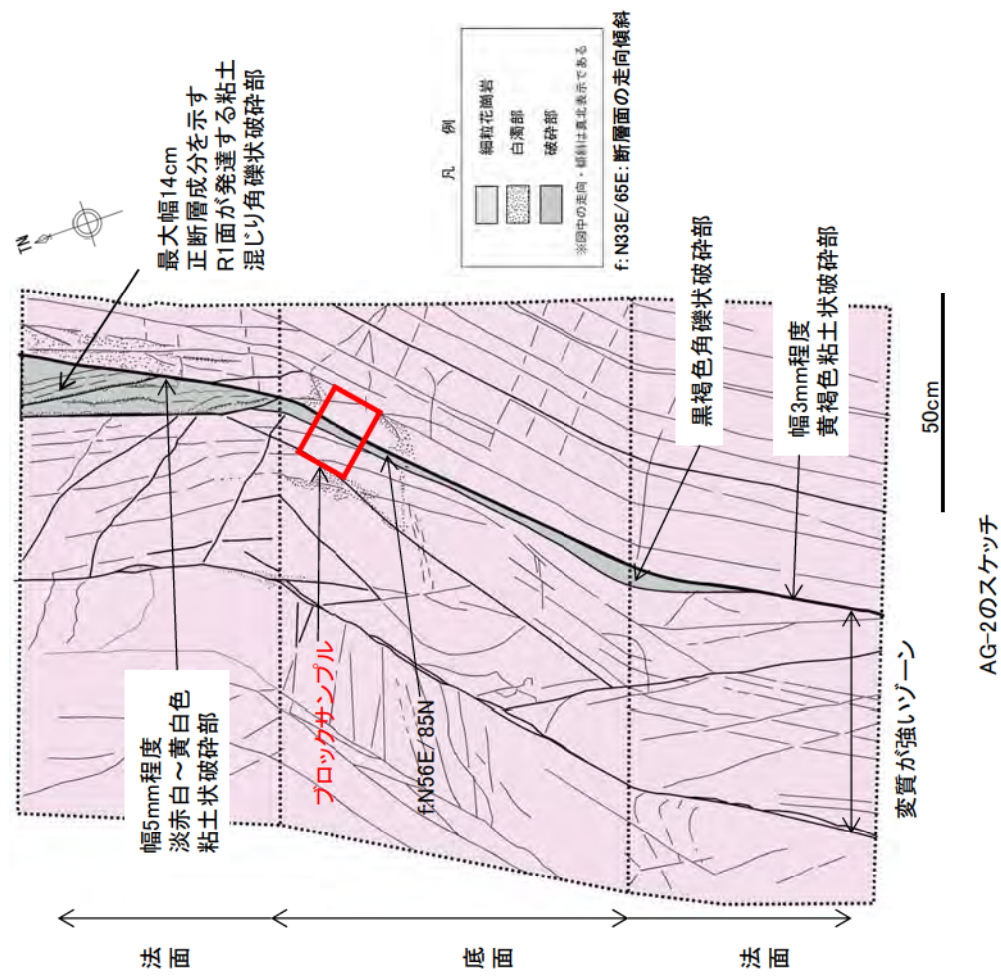
新鮮な花崗岩のチャート

記号凡例

Q: 石英
Pl: 斜長石
Kf: カリ長石
Sm: スメクタイト
Mi: 雲母粘土鉱物
K: カオリン鉱物



AG-2の写真



走向傾斜はN56E/85N。
 破砕幅は0.3cm〜14cm、粘土状破砕部と粘土混じり角礫状破砕部からなる。
 露頭観察では正断層を示すR1面が認められる。
 また、最新面にレイク45NEの条線を確認した。

第 1.5.17 図 アゴ越付近の破砕部 (AG-2) の露頭写真(1)及びスケッチ



写真1

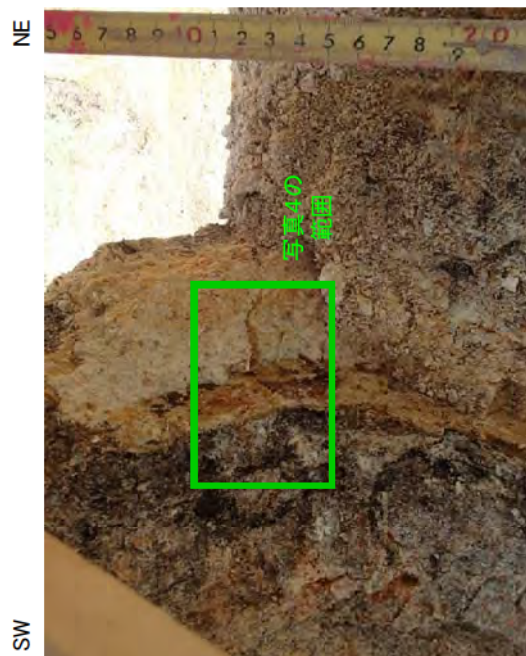


写真3

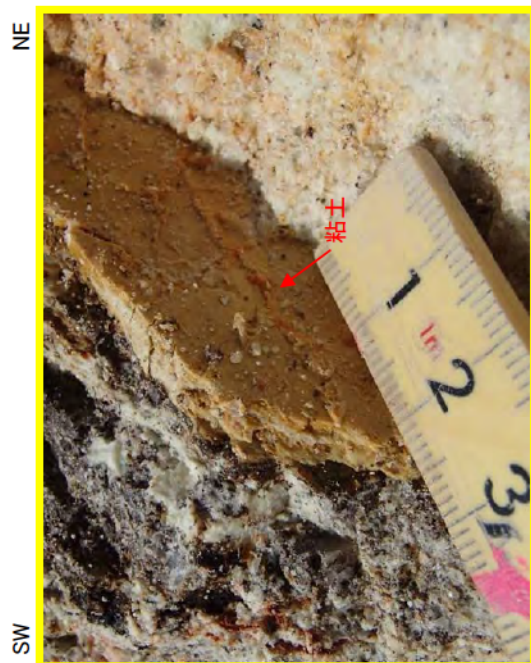


写真2: 断層面上に黄褐色の粘土が網目状に発達する。

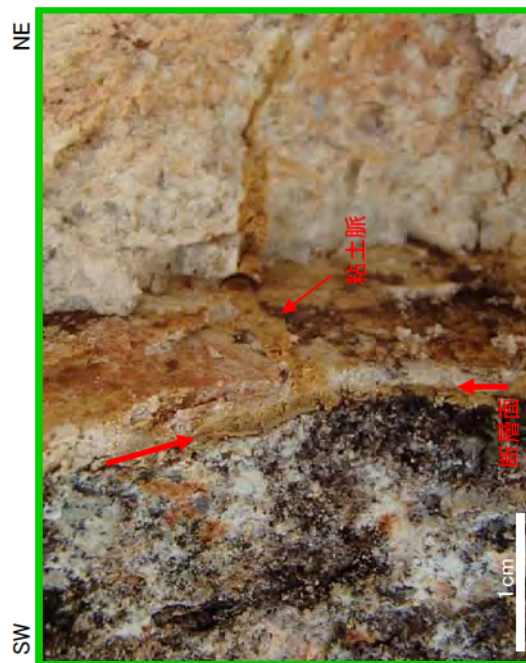
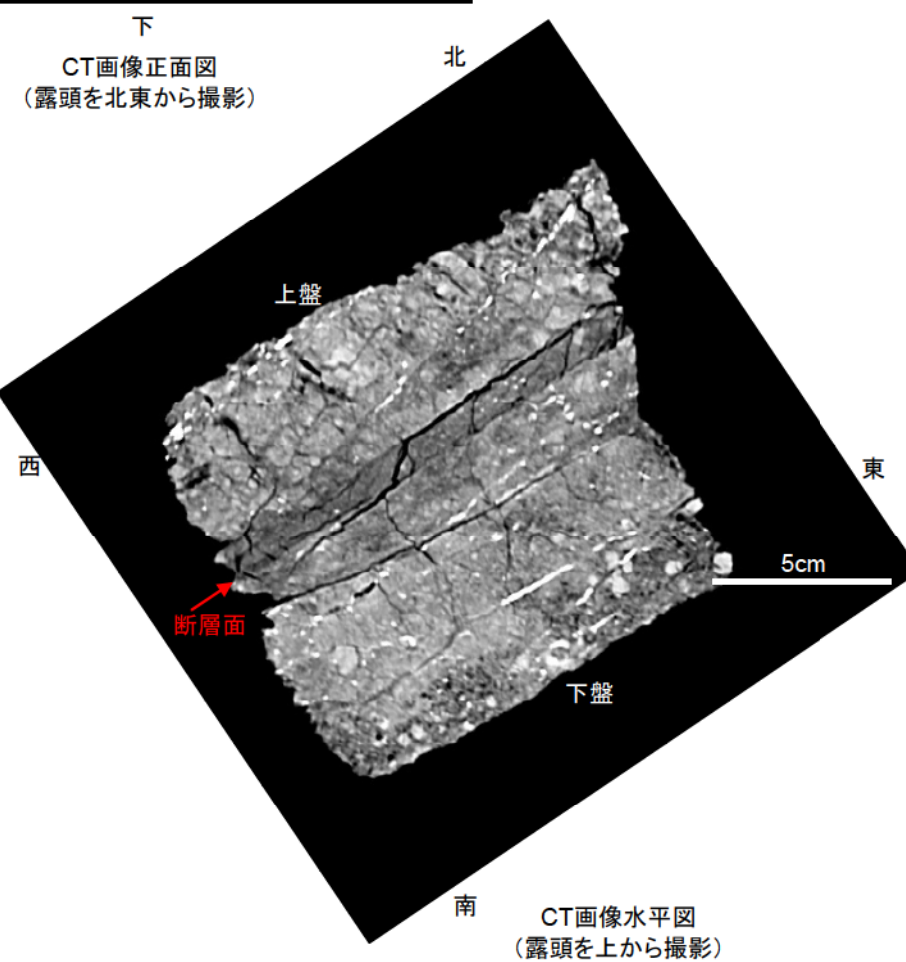
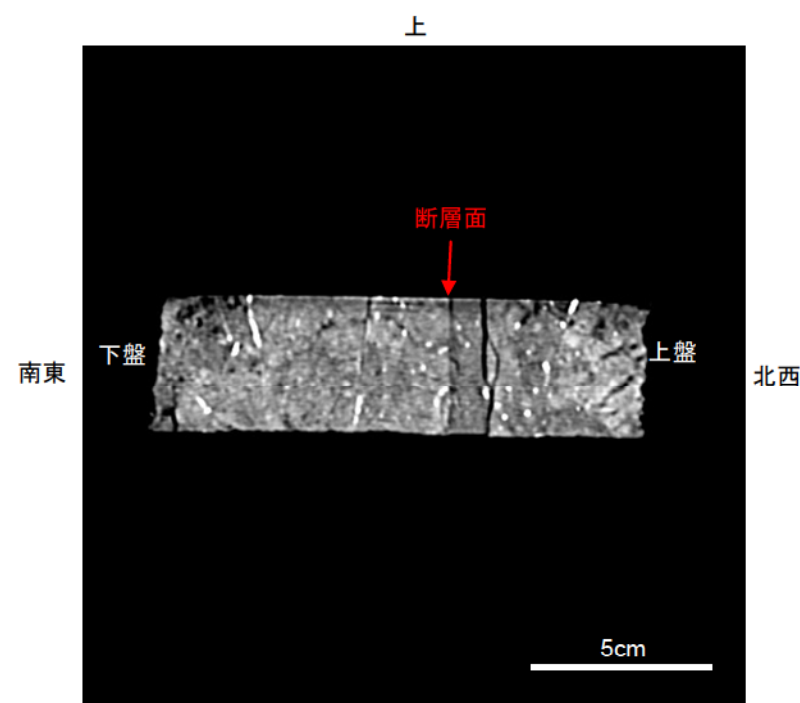


写真4: 断層面に直交する方向に粘土脈が分布しており、薄片を作成して、断層面との関係を観察する。



断層面の走向/傾斜:N56E/85N。
縦ずれ成分:不明、横ずれ成分:右横ずれ(低密度部)。
研磨片中に途切れることなく連続するY面が1条認められた。このY面は直線性に優れる。
さらに、このY面に沿って幅1cm程度の低密度部が認められたことから、このY面が断層面であると考えられる。

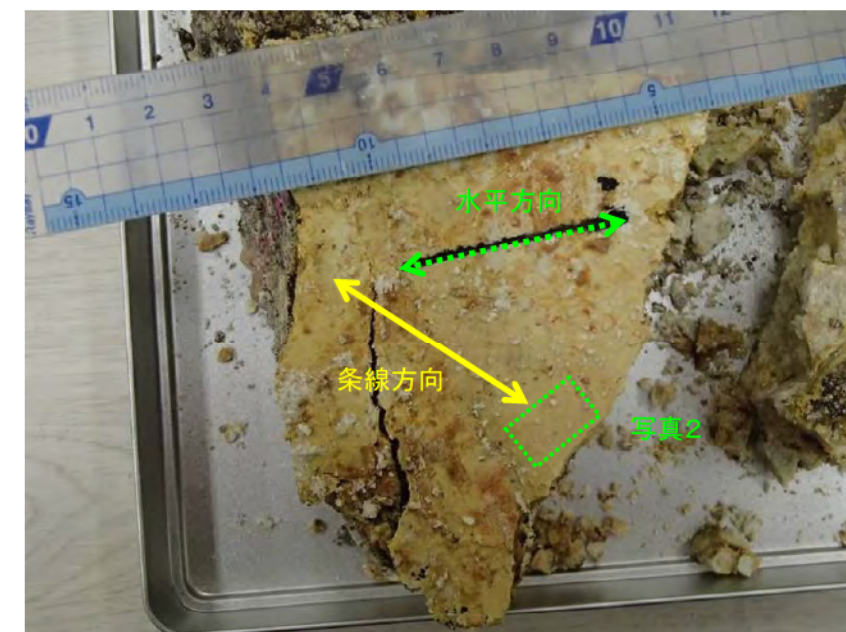


写真1:条線観察用試料-断層面-上盤下面を観察

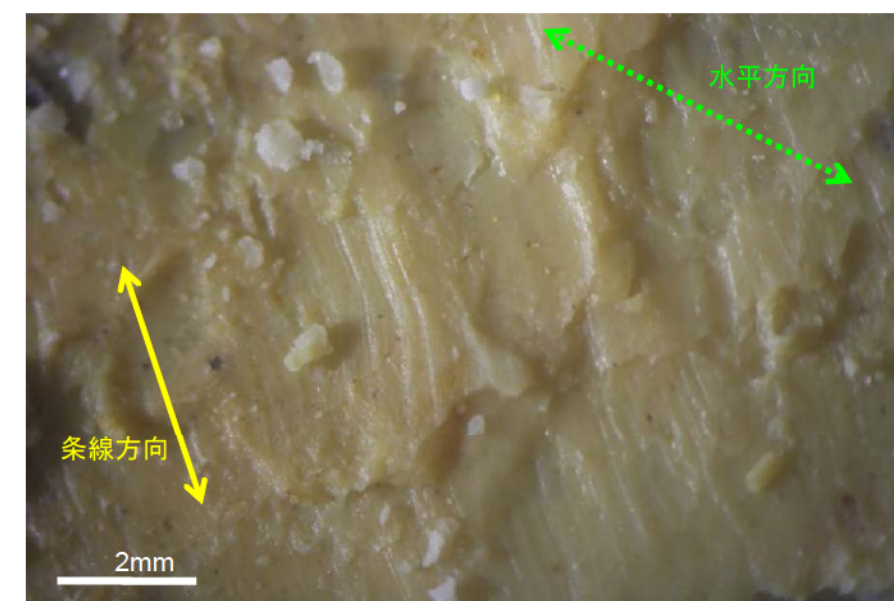
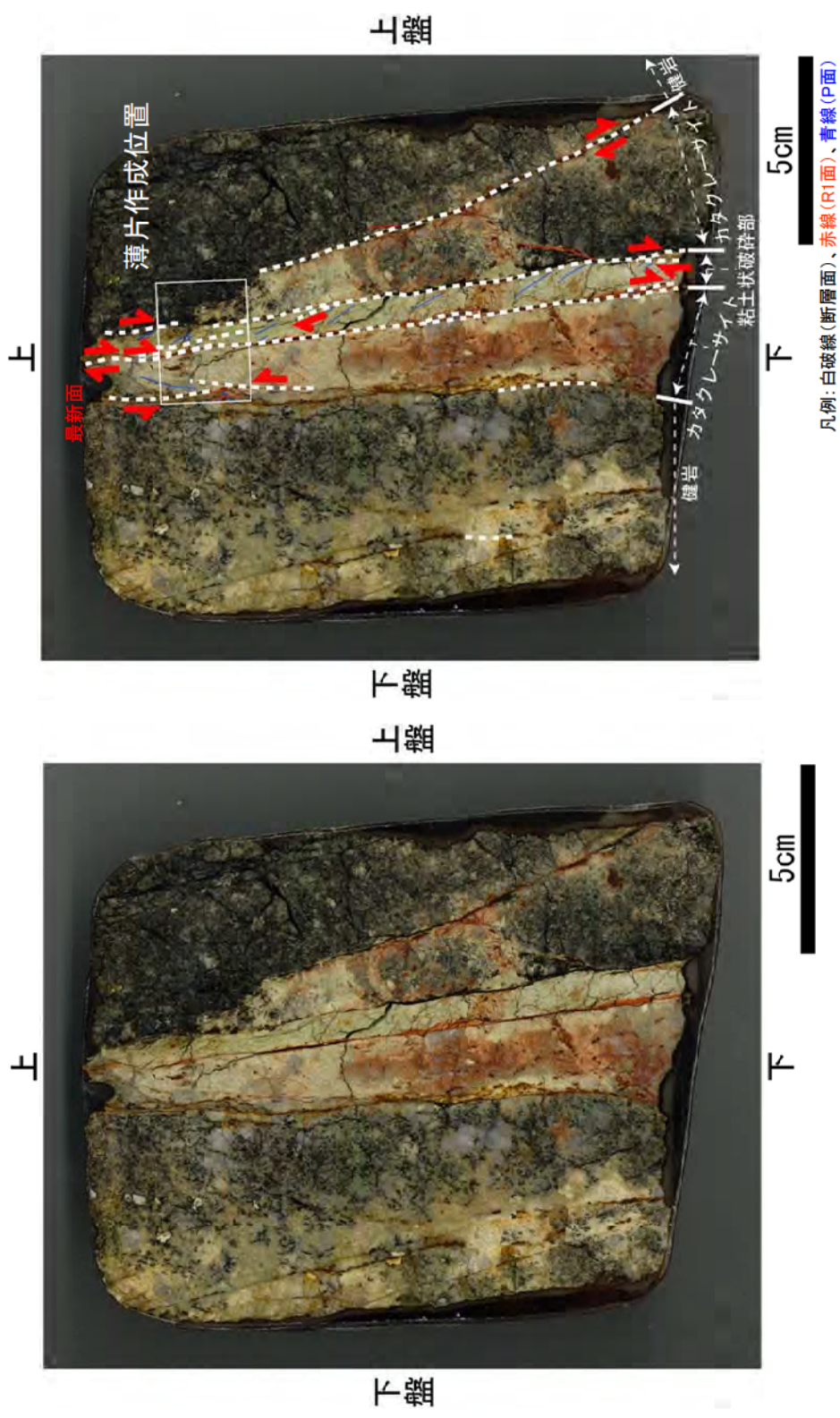


写真2:上盤下面で観察しているため、復元するとレイク45NEの条線であることがわかる。

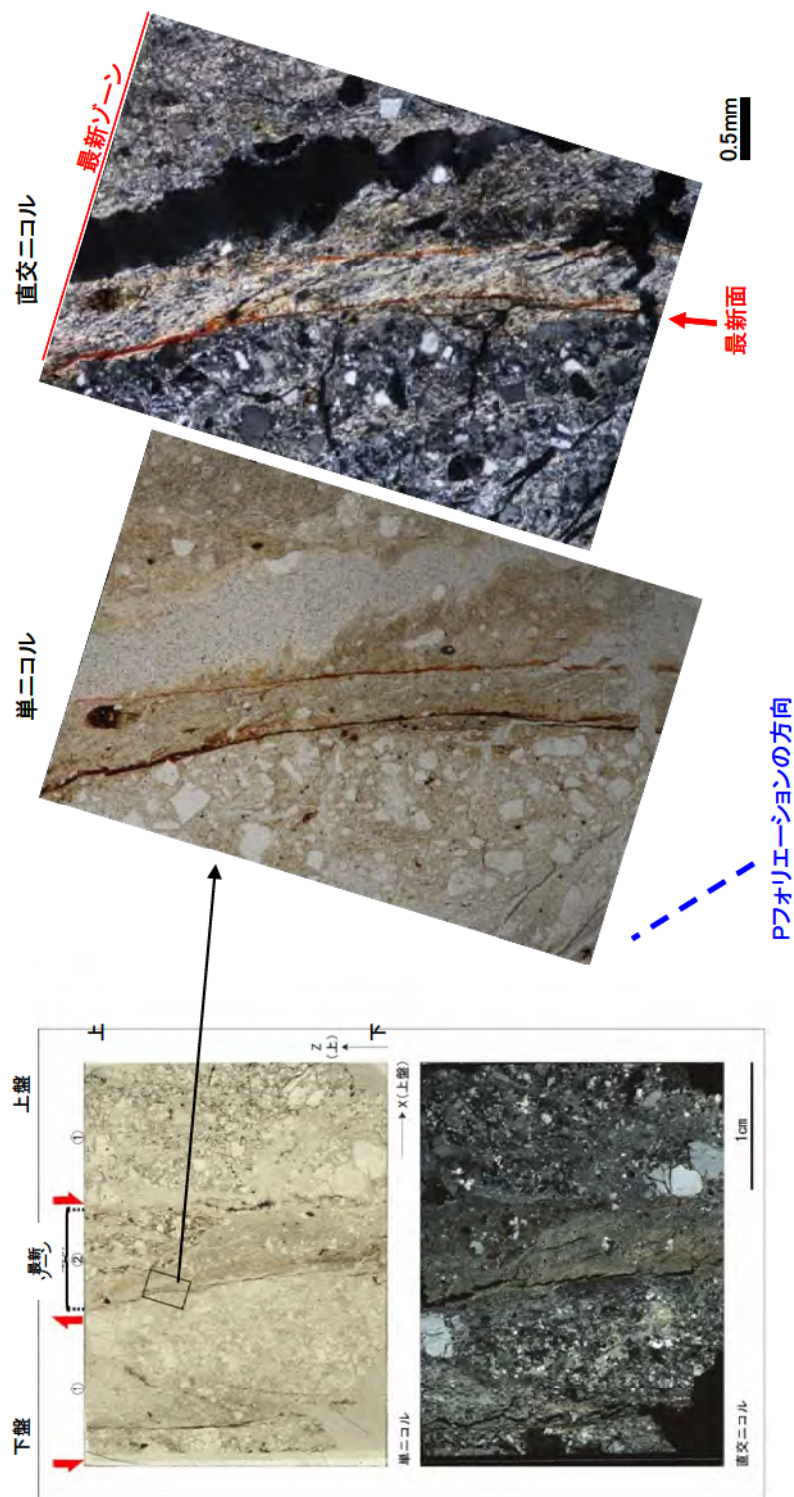
第 1. 5. 19 図 アゴ越付近の破碎部 (AG-2) の C T 画像観察および条線観察結果



研磨片観察結果

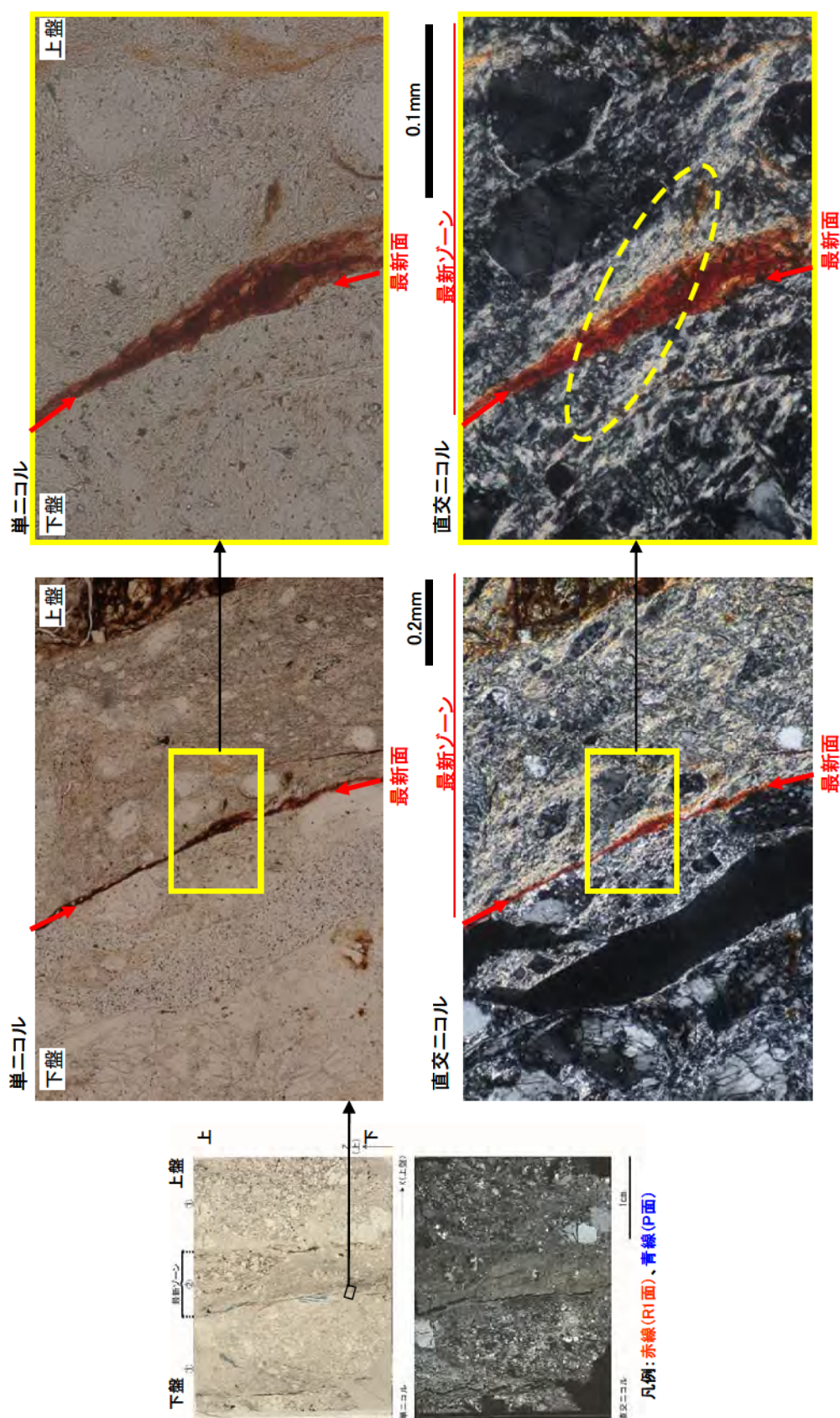
- 分帯: 健岩とカタクレーサイト、粘土状破砕部が認められる。
- 粘土状破砕部に沿って、研磨片を横断するY面が1条認められる。さらに、このY面は直線性に優れることから、最新面であると考えられる。最新面は主に粘土状破砕部と下盤側のカタクレーサイトを境界付ける。
- 下盤側のカタクレーサイト中のY面に沿って左横ずれを伴う逆断層センスを示す複合面構造が認められる。さらに、最新面に沿う粘土状破砕部中に右横ずれを伴う正断層センスを示す変形指標が認められる。これらのことから、運動センスが左横ずれを伴う逆断層から右横ずれを伴う正断層に反転した可能性がある。

第 1.5.20 図 アゴ越付近の破砕部 (AG-2) の研磨片観察結果

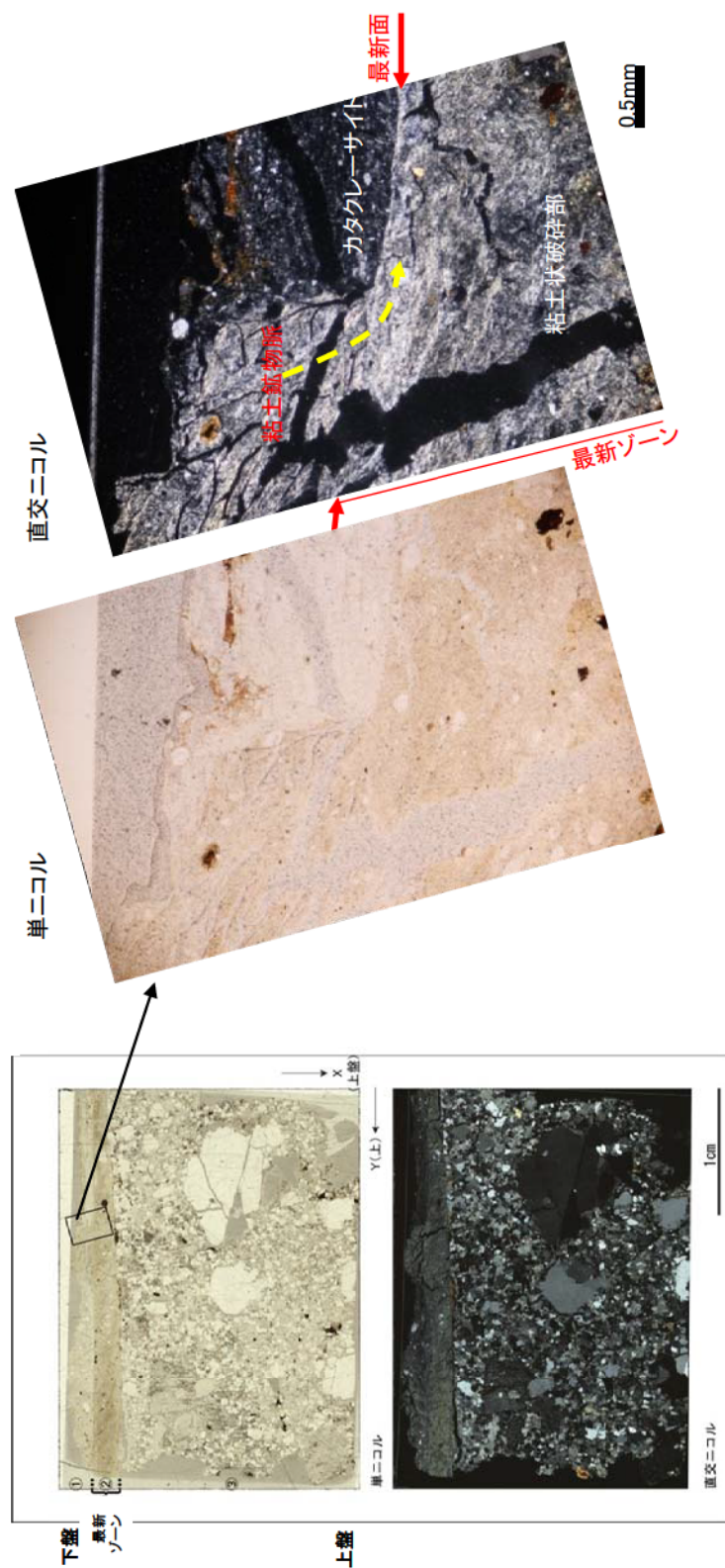


- ・観察の結果、①カタクレーサイト、②粘土状破砕部に分帯される。②が最新ゾーンである。最新面は粘土状破砕部(②)とカタクレーサイト(①)の下盤側境界に位置する。最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・最新面に沿う②中に右横ずれを伴う正断層センスを示すPフォリエーションが認められる。
- ・断層の走向傾斜がN56E/85N、糸線角度が45NEであることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

第 1.5.21 図 (1) アゴ越付近の破砕部 (AG-2) の薄片観察結果 (1)

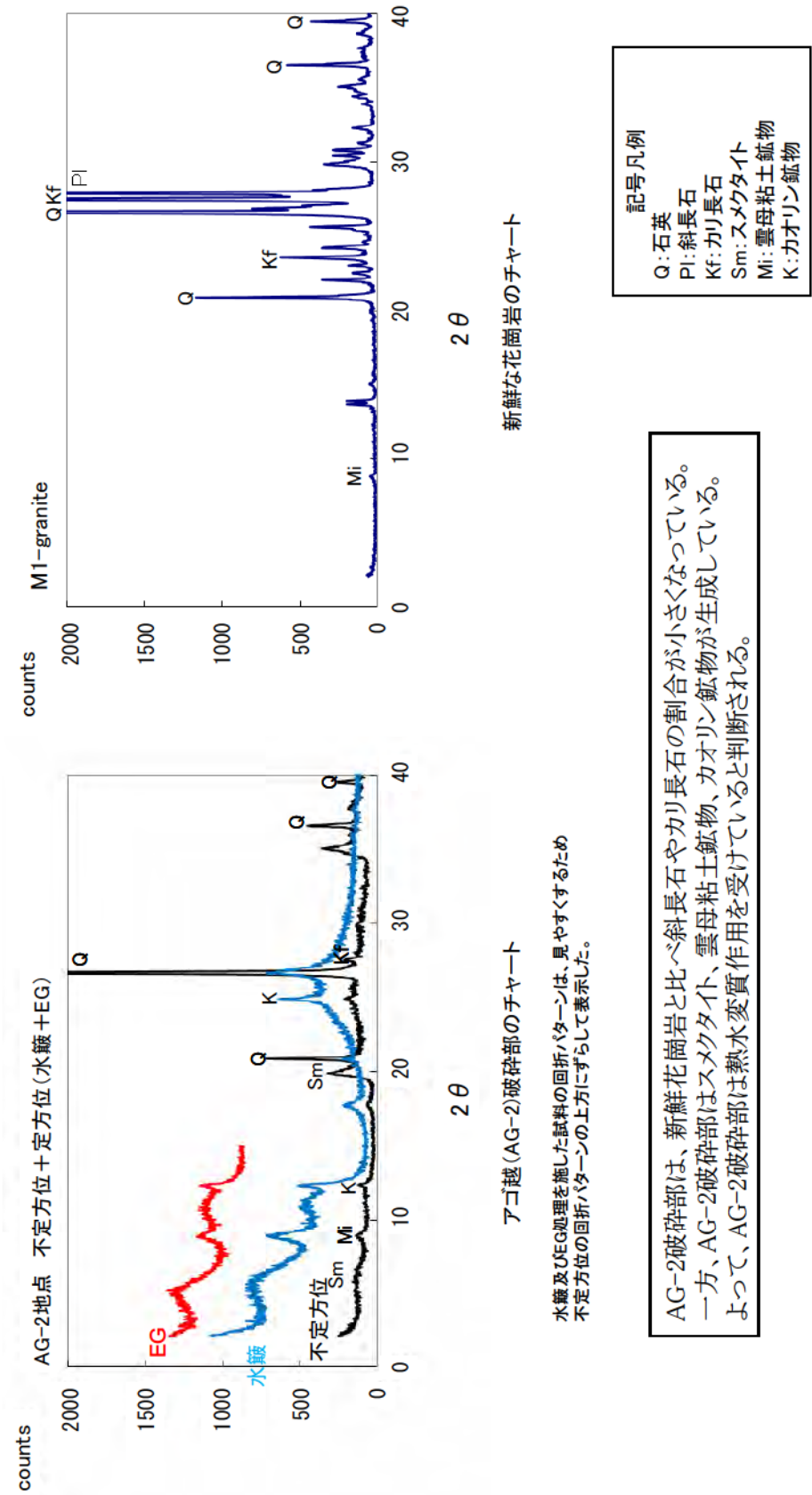


・最新面及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達し、最新面を横断しているものがあり、変形していない。



- ・薄片観察の結果、①カタクレーサイト、②粘土状破砕部、③健岩に分帯される。②が最新ゾーンである。最新面は粘土状破砕部(②)とカタクレーサイト(①)の境界に位置する。最新ゾーンでは層状構造が認められない。
- ・最新面が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・カタクレーサイトを横断し、さらに最新面を横断して粘土状破砕部に入り込んでいる粘土鉱物脈が認められる。

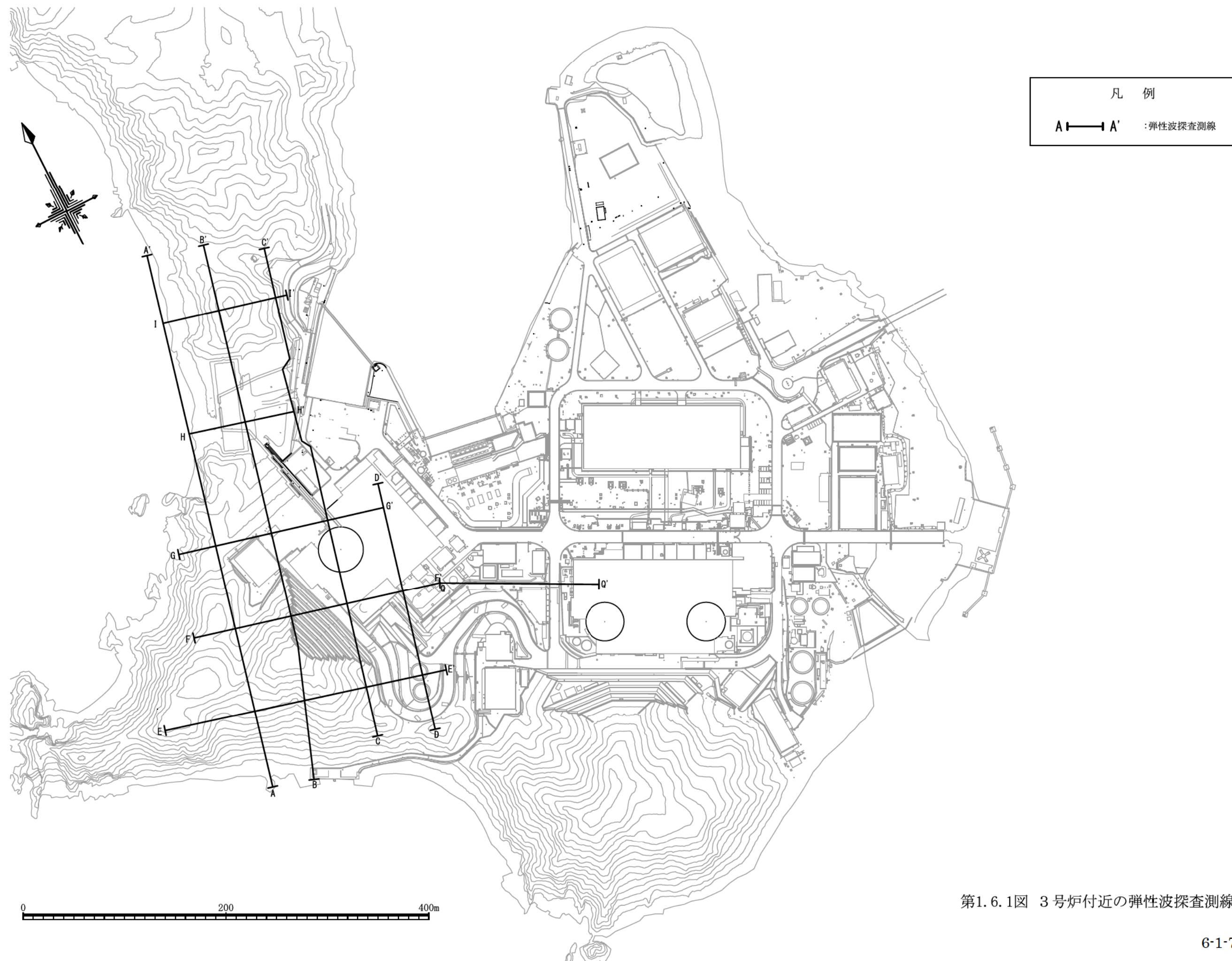
第 1.5.21 図 (3) アゴ越付近の破砕部 (AG-2) の薄片観察結果 (3)

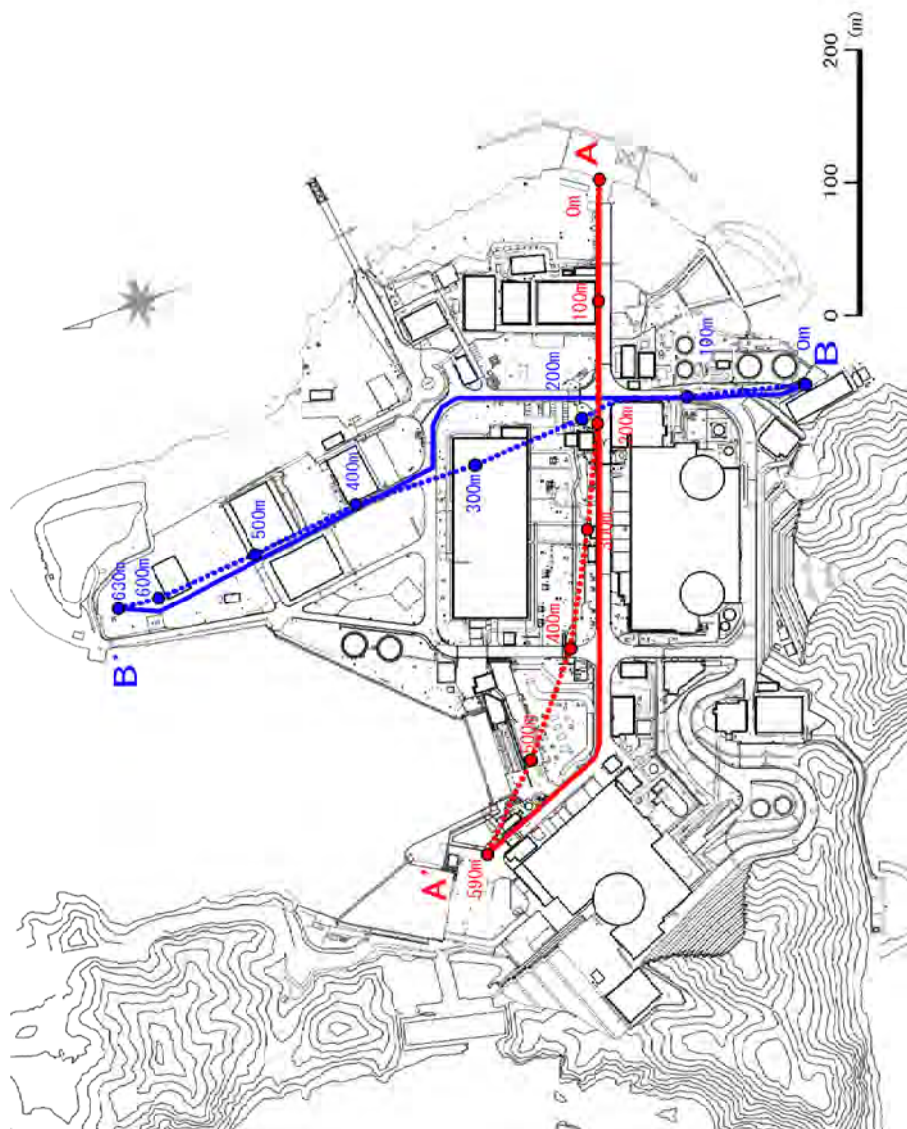


水鏡及びEG処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

AG-2破砕部は、新鮮花崗岩と比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。一方、AG-2破砕部はスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物が生成している。よって、AG-2破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

新鮮な花崗岩のチャート



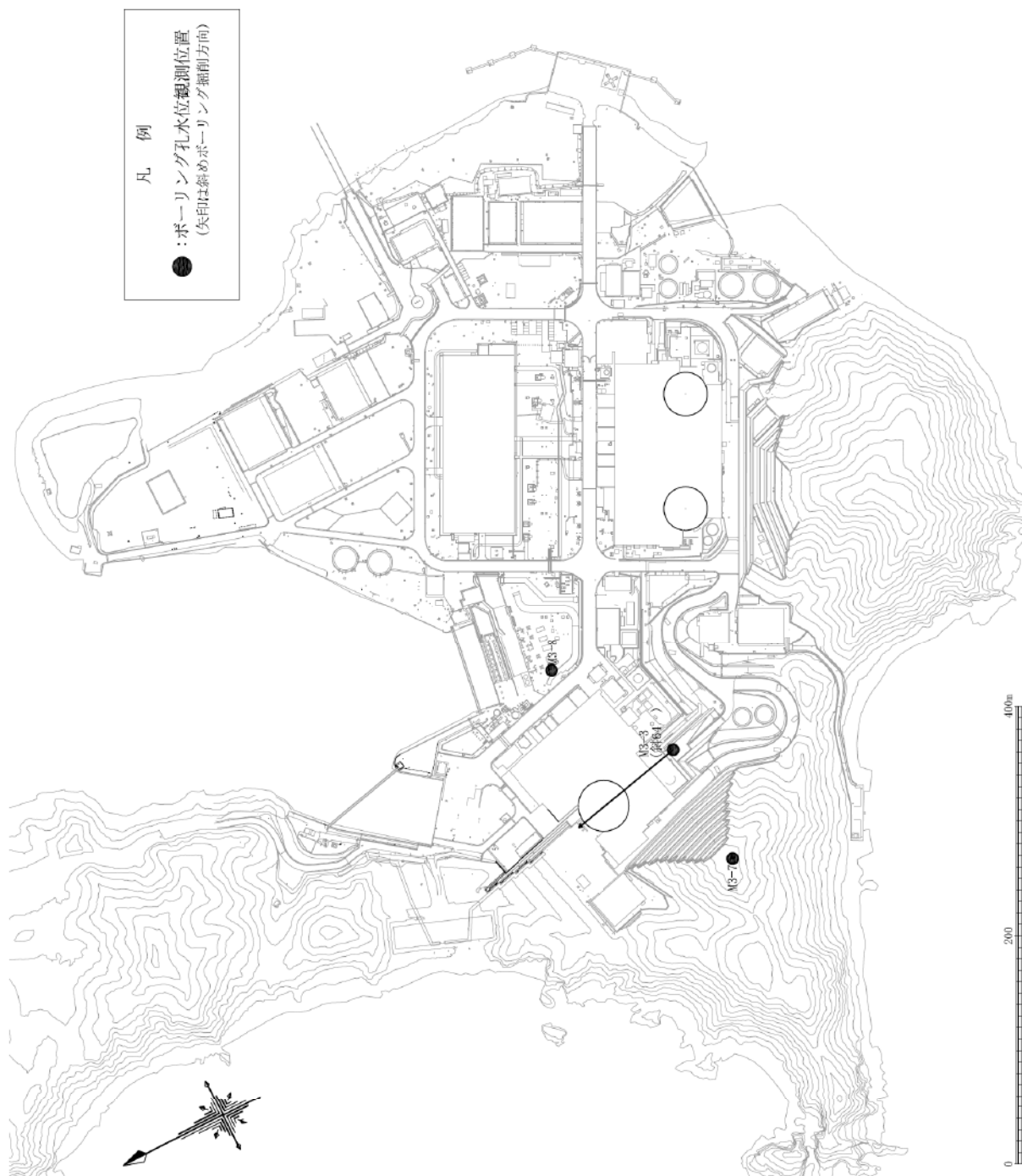


図中の数値は始点からの距離(m)

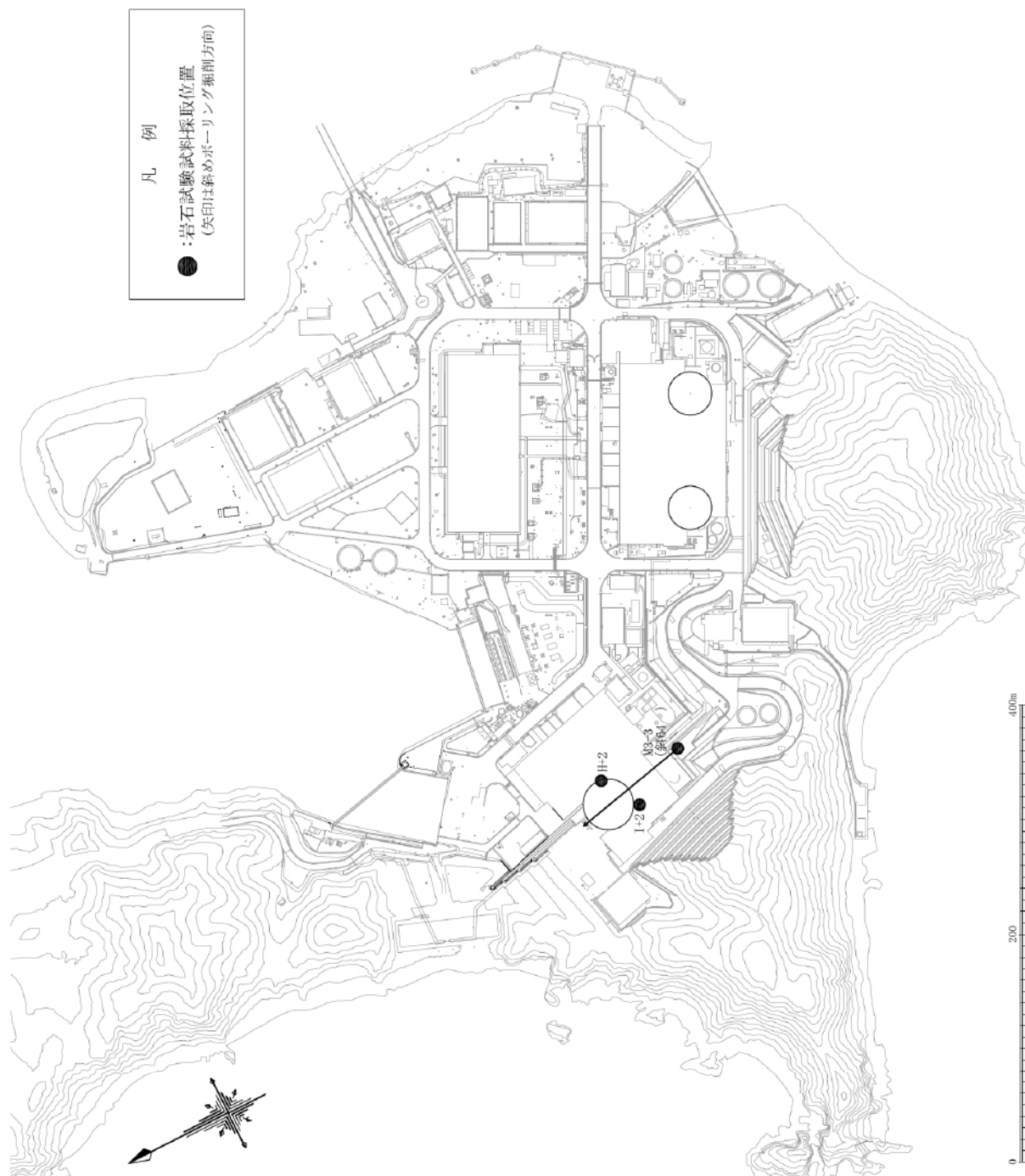
- 探査測線(A測線)
- 解析断面(A測線)
- 探査測線(B測線)
- 解析断面(B測線)

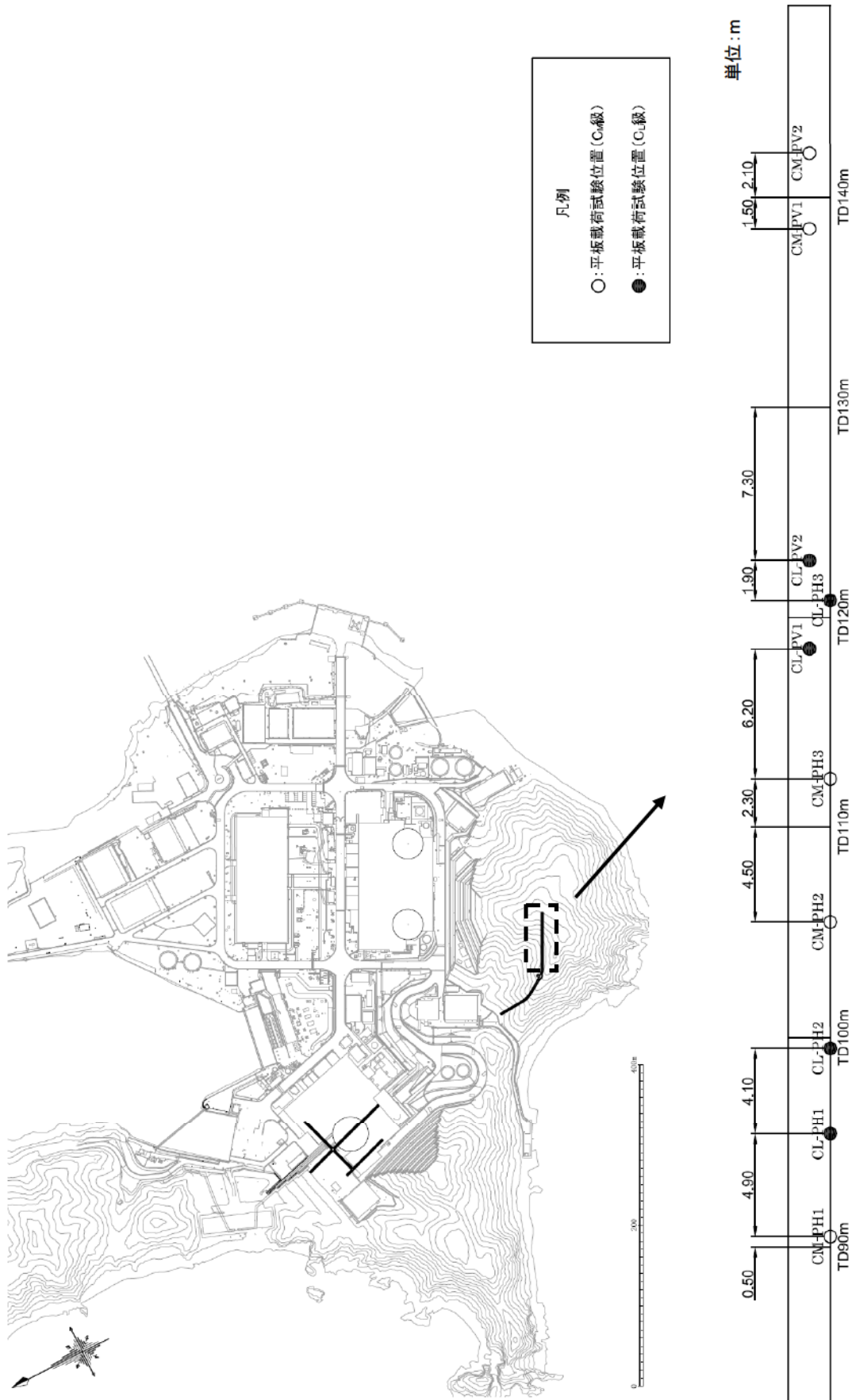
測線	A測線	B測線
探査測線長(m)	610	670
解析断面長(m)	590	630

第 1. 6. 2 図 反射法地震探査測線及び解析断面位置

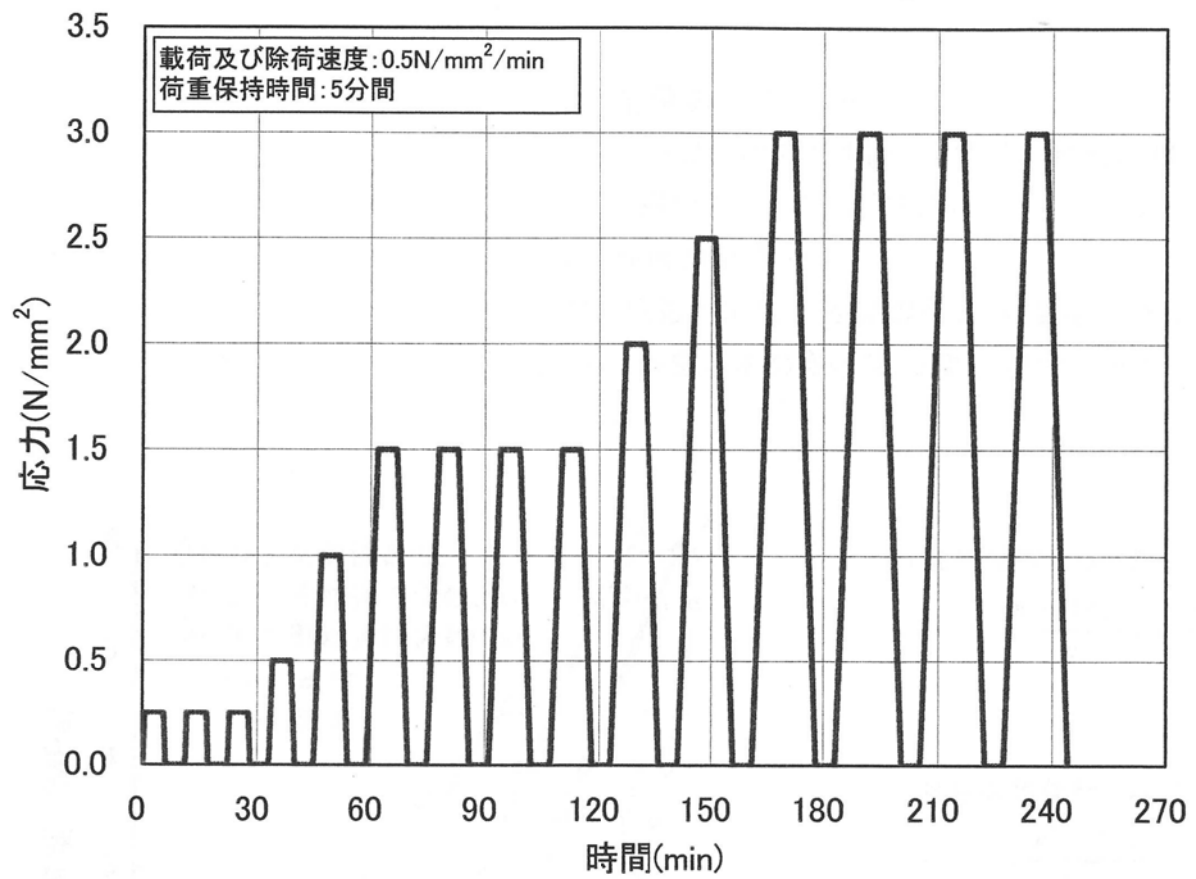


第1.6.3図 ボーリング孔水位観測位置図

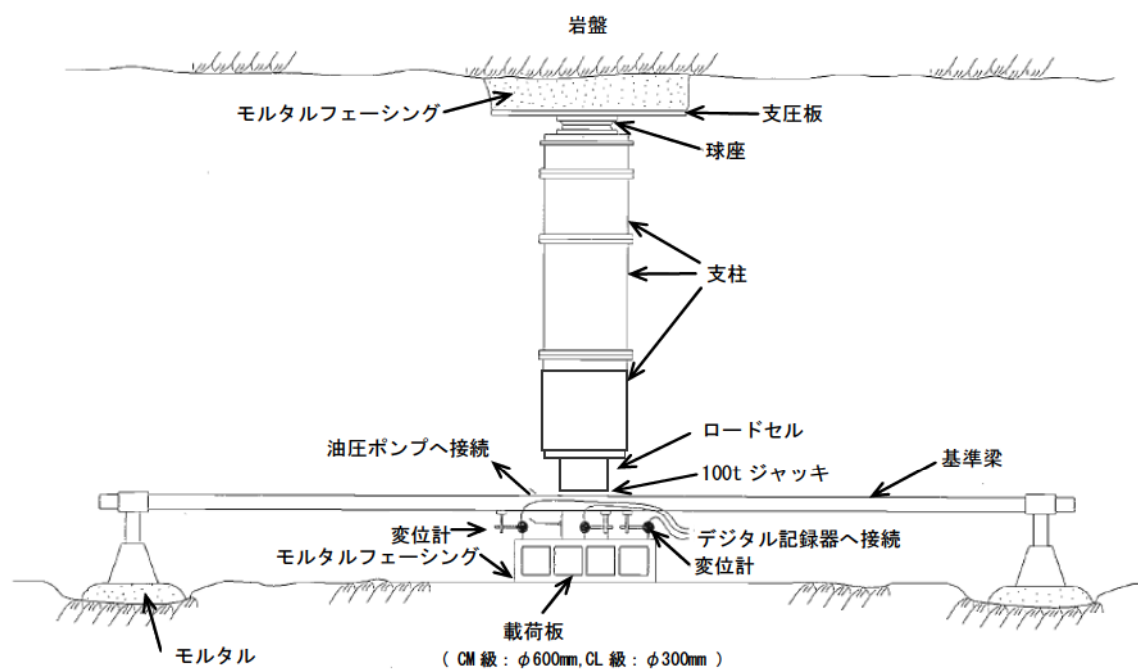




第 1.6.5 圖 平板載荷試驗位置圖



第1.6.6図 平板載荷試験載荷パターン図



第 1.6.7 図 平板載荷試験装置図